



第3章 本市の状況と将来推計

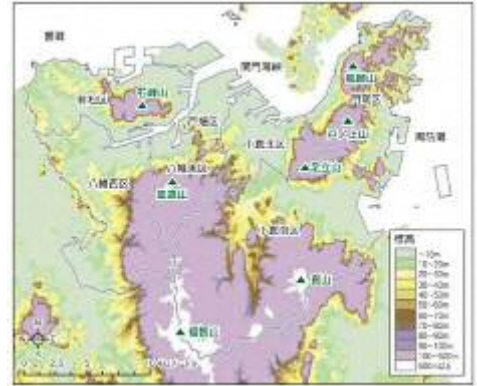
1 本市の状況

(1) 自然的条件

本市は、九州の最北端に位置し、関門海峡を挟んで本州と相対しており、総面積は約 492 km² です。

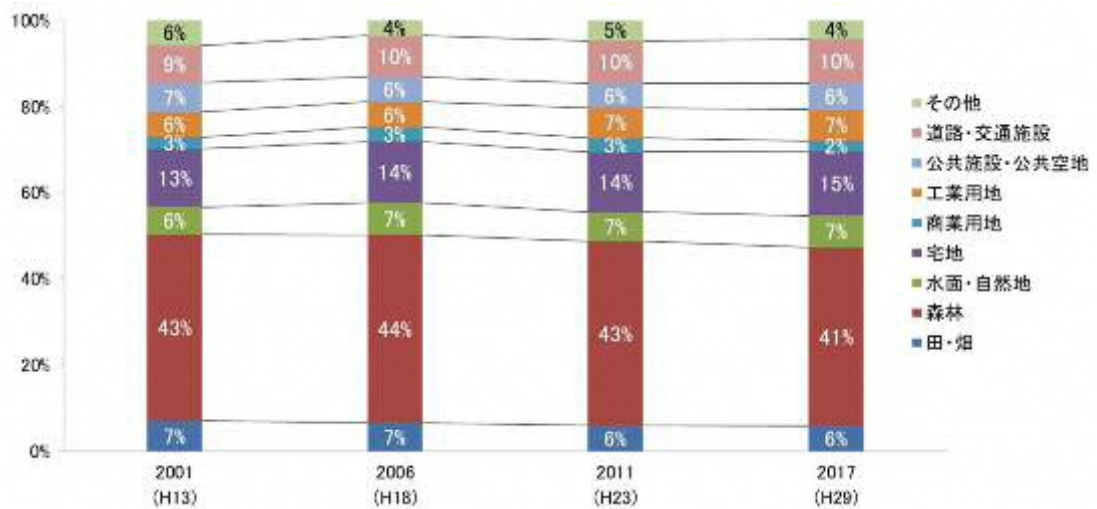
地形的特性は、長い海岸線と起伏に富んだ山地を多く持ち、これらの地形が海岸線沿いや河川流域に形成された平野部を包み込む形で広がっています。

土地の利用状況は、工業用地としての利用は 7%、メタンなどの発生源である田・畑への利用は 6%、CO₂ 吸収源である森林面積は約 41% です。



標高図(出典:北九州市緑の基本計画)

図表 3-1 土地の利用状況の推移



出典:「北九州市統計年鑑」より



(2) 社会的条件

① 人口・世帯数・世帯当たり人数

人口は減少傾向にあり、近年では、毎年 5,000 人以上の人口減少が続いており、2019 年度では 約 95 万人でした。一方、世帯数は、世帯あたりの人数の減少(核家族化)に伴って増加傾向にあります。

図表 3-2 市内の人口・世帯数・世帯当たりの人数

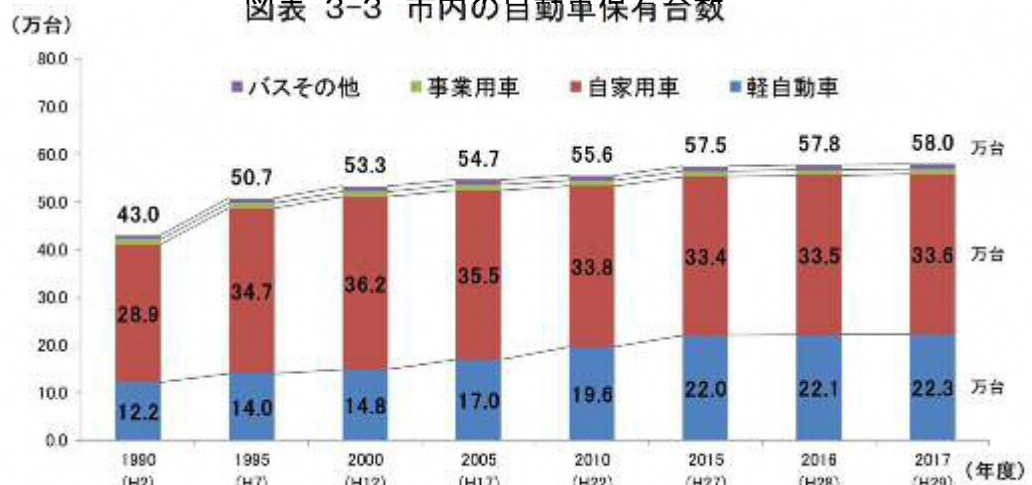


出典:「北九州市統計年鑑」、「日本の地域別将来推計人口(社人研)」より

② 自動車保有台数

市内の自動車保有台数は、2017 年度は約 58 万台でした。1990 年度以降、自動車保有台数は増加傾向にありましたが、近年は横ばいです。また、軽自動車の伸びが著しく、約 1.8 倍(1990 年度比)に増加しています。

図表 3-3 市内の自動車保有台数



出典:「北九州市統計年鑑」より



③ 業務用延床面積

市内の業務用延床面積は、2017年度は約1248万㎡でした。1990年度以降、業務用延床面積は増加傾向にありましたが、近年は横ばいです。特に、事務所・店舗が約1.5倍(1990年度比)に増加しています。

図表 3-4 市内の業務用延床面積



出典:「北九州市統計年鑑」より

④ 製造品出荷額等

市内の製造品出荷額等は、2018年度は約2.33兆円でした。1990年度以降、経済活動の影響を受けて増減を繰り返しています。

図表 3-5 市内の製造品出荷額等



製造品出荷額等:「製造品出荷額」、「加工賃収入額」、「くず廃物の出荷額」及び「その他収入額」の合計

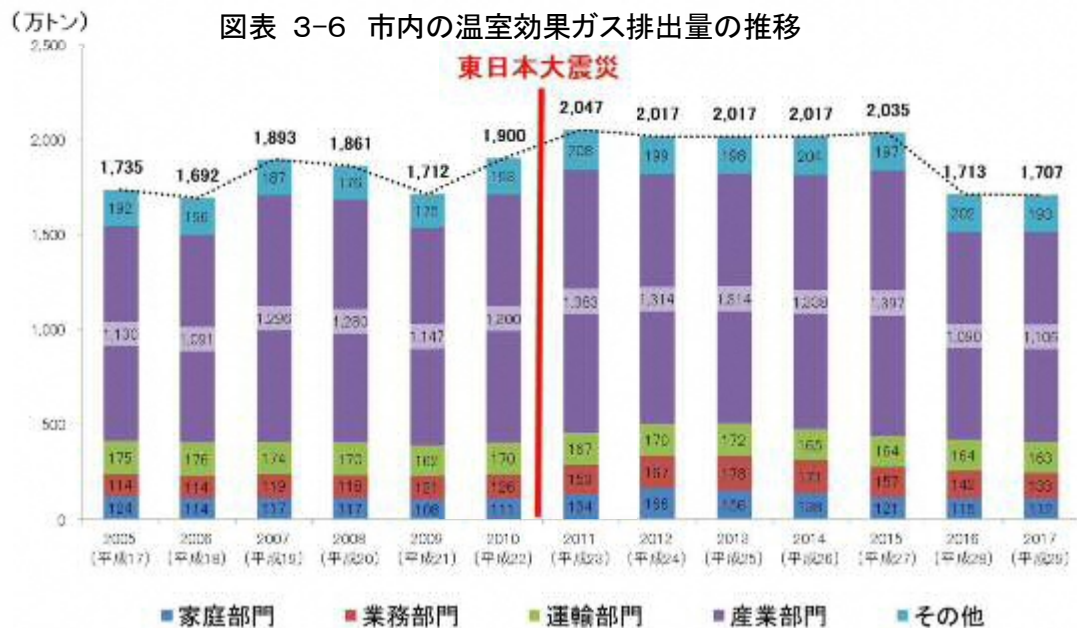
出典:「北九州市統計年鑑」より



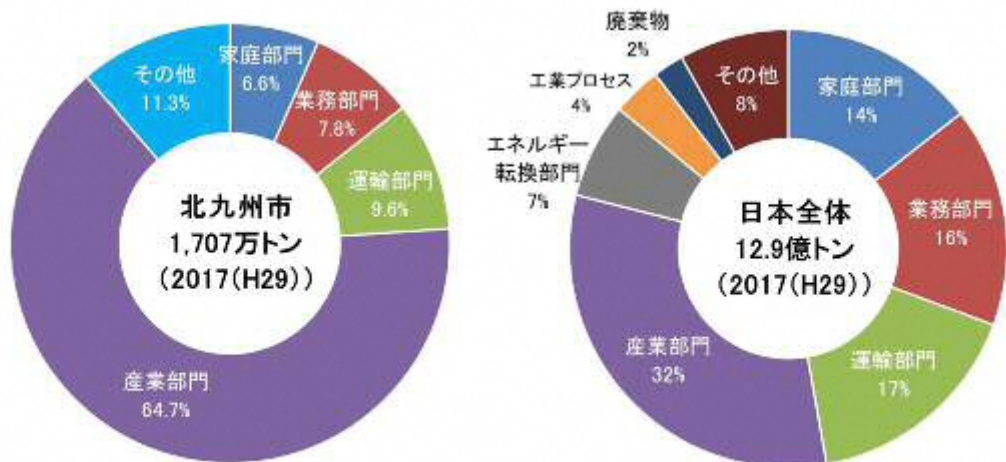
(3) 温室効果ガス排出状況及びエネルギー消費量

① 市内の温室効果ガス排出量

2017年度の温室効果ガス排出量は、1,707万トンでした。東日本大震災の影響で火力発電が増加し、2,000万トンを超える状況が続いていましたが、省エネルギーの推進や再エネの普及により、直近では、前計画で基準としていた2005年度を下回っています(2005年度比▲1.6%)。また、本市では、産業部門からの排出が、市域全体の排出量の約6～7割を占め、日本全体の割合よりも高い値です。



図表 3-7 部門別割合(北九州市と全国との比較)



その他: エネルギー転換部門、廃棄物部門、工業プロセス部門、メタン、一酸化二窒素、フロンガス類の合計

出典: 国立環境研究所データを元に作成



② 市内のエネルギー消費量

2017年度のエネルギー消費量は、194,596TJでした。省エネルギーの推進などにより、直近では2005年度比で▲6.1%となっています。

図表 3-8 市内のエネルギー消費量の推移

